

# 子宮頸部細胞診 検査方法変更のお知らせ

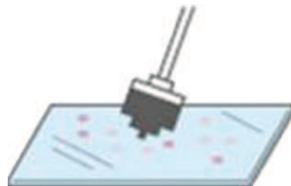
2026年4月1日より、子宮頸部細胞診について、従来の直接塗抹法から、液状化検体法(liquid-based cytology;LBC 法)への変更および料金改定を行います。

LBC 法は直接塗抹法と比較してより精度が高く、日本産婦人科学会でも推奨されています。

## 直接塗抹法 (従来法)



細胞を採取



スライドガラスに塗布



標本を作製し  
細胞を観察する

## LBC 法 (変更後)



細胞を採取



専用容器に回収

細胞の回収率が  
アップ



不純物を取り除き  
スライドに塗布

血液、粘膜などの不純物を取り除いたうえで  
標本化されるため、異常細胞を発見しやすい  
といわれています



観察しやすい  
標本が作製できる

## 〈 料金改定 〉

2026年4月1日～

	変更前	変更後
検査法	直接塗抹法	LBC 法
料金	3,300 円(税込み)	4,400 円(税込み)

※LBC 法では同一検体で HPV 検査ができるメリットがあります。HPV とは子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルスです。詳しくは次ページの「[HPV 検査のご案内](#)」をご確認ください。

一般財団法人) 九健康総合センター

〒805-0062 八幡東区平野一丁目11番1号 TEL 093-672-6050 ガイダンス1番

## 子宮頸がん検診と一緒に「HPV 検査」を受けませんか。

子宮頸がんの原因

# HPV 検査のご案内

〈ヒトパピローマウィルス〉

子宮頸がんにかかる人は、わが国の女性のがんの中でも比較的多く  
また 20~40 歳代の女性で罹患者も多く近年増加傾向にあります。

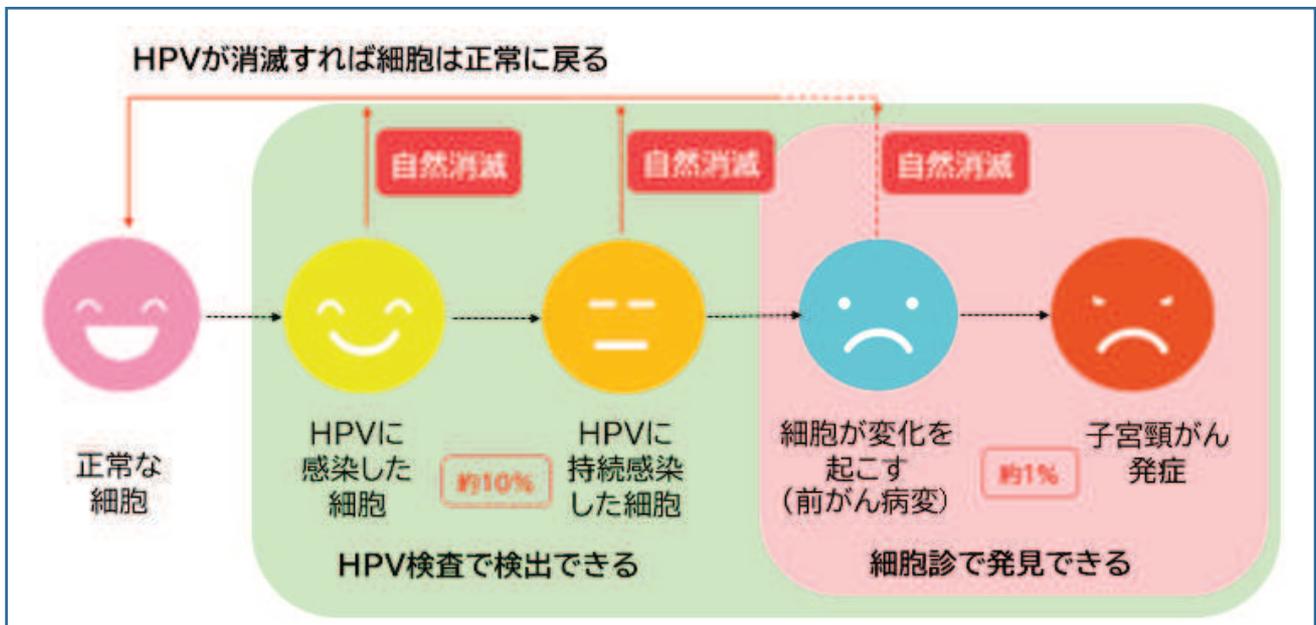
子宮頸がんは、定期検診を受けることで予防できます。

子宮頸がんは、ヒトパピローマウィルス(HPV)というウィルスが原因となることがほとんどです。

HPV には 100 以上もの種類がありますが、そのうち約 13~14 種類の HPV が子宮頸がんと大きな関わりがあり、ハイリスク HPV と呼ばれています。ウィルスが感染しても多くの場合は免疫によって排除されますが、ごく一部が持続感染し、子宮頸部の細胞をがん化させることがわかっています。

ハイリスク HPV は粘膜同士の接触によって感染し、多くの場合性交渉によって感染すると考えられています。前がん病変で発見すれば、がんになる前に治療も可能であり子宮頸がんを予防できます。子宮頸がん検診と HPV 検査を同時に受診することをおすすめします。

### 子宮頸がんになるまで



HPV 検査料金 9,130 円 (税込)  
\* 子宮頸がん検診細胞診とセットの料金です

一般財団法人 九州健康総合センター 〒805-0062 八幡東区平野一丁目 11 番 1 号  
TEL 093-672-6050 ガイダンス1番